

令和 2 年度事業報告書

I 市との協定事業

1. 普及啓発部門

1) 区民まつり等のイベントや学習会等を通じた重点テーマの普及啓発

(1) 事業期間

令和2年11月17日～令和3年1月31日

(2) 事業内容

①区民まつり等イベントでの令和 2 年度重点テーマの普及

回	開催日	場 所	概 要
1	令和2年 11月20日	港南区役所1階ロビー 廃食油回収時に実施	横浜カーボンオフセットプロジェクトのアンケートを取りながら、どの項目の省エネ効果が大きいのか、又、白熱電球を LED 電球に買い替える効果が大きいことを説明した。 まだ、意外に買い替えをしていない人が多い事を知る。
2	令和2年 11 月 3 日～ 11 月 23 日	ふるさと港北ふれあい まつり専用WEBページ	今年は新型コロナウイルス感染症への対策としてオンラインで11月3日～11月23日の期間で開催された。 ここで団体や学校の部活動の発表の場も設けられ、当協議会も日頃の活動の紹介、今年度より新たに開設した、Facebook「ゼロカーボン横浜チームゼロ」のPR等を行った。(次ページスクリーンショット参照)



参加団体一覧

行政・関連団体カテゴリー

横浜市地球温暖化対策推進協議会

よこはましちきゅうおんだんかたいさくすいしんきょうぎかい



「ゼロカーボン横浜」を達成するために、「地球温暖化対策推進協議会」が核となり、横浜市と企業、各種団体、大学、そして市民の方と連携して、私たちのライフスタイルを見直し、省エネルギー型で環境負荷が少ない社会の実現を目指して活動しています。当協議会は普及活動の一環として、ほぼ毎年、ふるさと港北ふれあいまつりにも出展し、家庭で出来る省エネ・節電等について情報提供し、一般家庭における二酸化炭素削減の取り組みの必要性をPRしています。今年度は「ゼロカーボン横浜」達成へ向けて、さらに各団体間の連携を深めるため、情報共有、意見交換の場としてFacebookを立ち上げました。閲覧だけならFacebookのアカウントがなくてもできますので、まずは気楽にご訪問下さい！そして気に入っていただけたら、ぜひ、グループに参加登録して下さい！（※登録するにはFacebookのアカウントが必要となります）

団体名： 横浜市地球温暖化対策推進協議会
ホームページ <https://www.3.hp-ez.com/hp/npo2017>
twitter
instagram
Facebook <https://www.facebook.com/groups/yokohama.team.zero/>

②Facebookに参加している団体・企業・大学・学生・自治会・区役所等の関係者からオンライン活用によるZero Carbon Yokohamaへの取り組みメッセージの発信

公開日	動画タイトル	URL
令和2年 12月14日	2050 Zero Carbon 地域からのメッセージ～大川 哲郎 (横浜市地球温暖化対策推進協議会事業者会員(株)大川印刷 代表取締役/横浜市地球温暖化対策推進協議会 副会長) 参考) 2月16日視聴143回	https://youtu.be/lWWJMrIzuA
令和2年 12月14日	2050 Zero Carbon 地域からのメッセージ～宮崎 紗矢香 (横浜市地球温暖化対策推進協議会事業者会員(株)大川印刷 経営企画広報室/人間活動家) 参考) 2月16日視聴230	https://youtu.be/oWe6crJ3BHQ
令和2年 12月21日	2050 Zero Carbon 地域からのメッセージ～樋口 智大氏 (横浜国立大学大学院 都市イノベーション学府) 参考) 2月16日視聴121	https://youtu.be/A6xXNg5Pfg
令和2年 12月26日	2050 Zero Carbon 地域からのメッセージ～廣木 亮哉氏 (東京都市大学環境学部4年/RCE横浜若者連盟) 参考) 2月16日視聴 89	https://youtu.be/7rz-kWlZLro
令和3年 1月1日	新年の挨拶～松本 真哉氏 (横浜市地球温暖化対策推進協議会会長/横浜国立大学教授) 参考) 2月16日視聴178	https://youtu.be/z9E0FK8XRLs
令和3年 1月1日	新年の挨拶～奥野 修平氏 (横浜市温暖化対策統括本部 副本部長) 参考) 2月16日視聴173	https://youtu.be/THcGlIbG5BQ
令和3年 1月1日	新年の挨拶～佐藤 一子氏 (横浜市地球温暖化対策推進協議会事務局長/ソフトエネルギープロジェクト理事長) 参考) 2月16日視聴 192	https://youtu.be/QgRe_Pc6WYQ
令和3年 1月10日	2050 Zero Carbon ～横浜市地球温暖化対策推進協議会「太陽光発電普及キャンペーンプロジェクト市外リーダー」福原 誉司氏 (株式会社Looop再エネ事業本部) 参考) 2月16日視聴 38	https://youtu.be/vAyprzylIyQ
令和3年 1月10日	2050 Zero Carbon ～横浜市地球温暖化対策推進協議会「太陽光発電普及キャンペーンプロジェクト市内リーダー」舟山 大器氏 (株式会社横浜環境デザイン社長室) 参考) 2月16日視聴60	https://youtu.be/2XlMtw00NMQ
令和3年 1月20日	2050 Zero Carbon ～太陽光発電普及キャンペーン参加事業者自己紹介(2020/12/14プロジェクト会議にて) 参考) 2月16日視聴 32	https://youtu.be/IhJk-6xFbfk

令和3年 1月20日	2050 Zero Carbon 地域からのメッセージ～山岡 仁美氏 (株式会社グロウスカンパニー+) 参考)2月16日視聴89	https://youtu.be/pPWvhPy9NEE
令和3年 1月21日	2050 Zero Carbon 地域からのメッセージ～フェリス女 学院国際交流学部 知足章宏ゼミ 参考) 2月16日視聴 543回	https://youtu.be/HN58C9SEBG
令和3年 1月27日	2050 Zero Carbon 地域からのメッセージ～廃食油回収 に取り組む想いを語る～参考)2月16日視聴 50 港南区連合自治会長藤田誠治氏、保土ヶ谷区法泉自治会長佐久間氏 信愛エナジー合同会社会長朝比奈巖氏	https://youtu.be/QolRWICwtyo
令和3年 1月27日	2050 Zero Carbon 地域からのメッセージ～高嶋 威男氏 (川上地区連合町内会 地域エコ活動委員会事務局長) 参考)2月16日視聴 16	https://youtu.be/lAxV1mnK2EI
令和3年 1月30日	2050 Zero Carbon 地域からのメッセージ～田辺 啓平氏 (PV-Net神奈川) 代表/横浜市地球温暖化対策推進協議 会 幹事) 参考)2月16日視聴 72	https://youtu.be/eYv9LWd0SXk
令和3年 1月30日	2050 Zero Carbon 地域からのメッセージ～黒川 克彦氏 (横浜温暖化防止推進員会議 代表/神奈川県地球温暖化 防止活動推進員) 参考)2月16日視聴 52	https://youtu.be/4izNnNu9Wqw
令和3年 1月30日	2050 Zero Carbon 地域からのメッセージ～吉田 健二氏 (Grobe株式会社・代表/関内まちづくり振興会エコタウ ン化プロジェクトメンバー) 参考)2月16日視聴17	https://youtu.be/Xv4RqT50Eek
令和3年 1月31日	2050 Zero Carbon 地域からのメッセージ～大場 真弥氏 (横浜市地球温暖化対策推進協議会 風力発電プロジェ クトリーダー) 参考)2月16日視聴15	https://youtu.be/GkF27mzLLCg
令和3年 1月31日	2050 Zero Carbon 地域からのメッセージ～日高 伸一氏 (あきば幼保連携型認定こども園園長) 参考)2月16日視 聴18	https://youtu.be/boKemYc4G3o

- ・ 令和2年11月17日～令和3年1月31日間における視聴回数合計 ⇒ 1667
- ・ 述べ21人にインタビューを実施し、令和2年12月14日から令和3年1月31日間における視聴回数の合計は1667回に達し、温暖化防止啓発活動の取組者の拡大の推進に一定の成果があった。

③オンラインによるテーマ別学習会・事例報告会の開催

Zero Carbon Yokohama の実現のために、横浜市・大学・事業者・NP0・個人らそれぞれの取組を共有し、他への実践を促すことを目的に令和3年1月に「2050年 温室効果ガス実質ゼロを目指して」という共通テーマで下記の日程・テーマにて3回、オンラインでセミナーを開催。後日、YouTubeチャンネルにアーカイブをアップし公開した。

オンラインセミナーはZoomによるライブ配信により実施し、申込フォームにより事前登録された申込者にメールにてZoomアカウントを送付することとした。

ー 連続セミナー 2050年 温室効果ガス実質ゼロを目指して ー

第1回【RE Actionへの企業の挑戦】&【脱炭素社会の企業経営と「エンカル就活」】

- ・開催日時 令和3年1月12日(火)17:00～18:20
- ・事前登録者数 65名
- ・来場者数 61名
- ・アーカイブ動画公開後、1月26日から31日までの視聴回数 8回 **参考) 2月16日現在 視聴 28回**

講師	テーマ	所属・肩書
奥野 修平	「Zero Carbon Yokohamaの実現に向けた、全市的な温暖化対策の連鎖づくり」	横浜市温暖化対策統括本部副本部長
金子 貴代	「再エネ100宣言 RE Action 参加の条件とメリット ～年次報告書2020より」	グリーン購入ネットワーク(再エネ100宣言 RE Action事務局)
大川 哲郎	「温室効果ガス実質ゼロへの挑戦—具体的取組と会社がどのように変わったか」	(株)大川印刷 代表取締役/横浜市地球温暖化対策推進協議会 副会長
山室 真優	「「エンカル就活」～就職後も温暖化対策の活動を続けたい」	Allesgood 広報担当
宮崎 紗矢香	「SDGs時代は「エンカル就活」？」	(株)大川印刷 経営企画広報室/人間活動家
樋口 智大	パネルディスカッション及び総合司会	横浜国立大学大学院 都市イノベーション学府

第2回【再生可能エネルギー100%は可能か】

- ・開催日時 令和3年1月22日(金) 15:30～16:45
- ・事前登録者数 46名
- ・来場者数 40名
- ・アーカイブ動画公開後、1月27日から31日までの視聴回数 7回 **参考)2月16日現在視聴41回**

講師	テーマ	所属・肩書
吉田 光	「横浜市の取組 再エネに関する東北との連携について」	横浜市温暖化対策統括本部調整課 担当係長
福原 誉司	「再エネを取り巻く状況～来年度の国の補助金の可能性」	太陽光発電普及キャンペーンプロジェクト市外リーダー (株式会社loop再エネ事業本部 自家消費事業部 主任)
舟山 大器	「企業・大学・自治会館・個人住宅「初期費用実質ゼロ円設置」事業」	太陽光発電普及キャンペーンプロジェクト市内リーダー (株式会社横浜環境デザイン 社長室長)
田辺 啓平	「自宅への太陽光発電パネル設置と電気自動車の蓄電池活用」	太陽光発電所ネットワーク神奈川地区リーダー
新村 繭子	「関内地域のエコタウン化をめざして」	関内まちづくり振興会理事
高校生	「ワンコインで再エネ実現」 「振動を浸透させよう」	神奈川県立希望が丘高校
佐藤 一子	司会	横浜市地球温暖化対策推進協議会事務局長

第3回 【省エネ、どう進めるか—つくる責任、使う責任】

- ・開催日時 令和3年1月29日(金) 15:30～16:50
- ・事前登録者数 32名
- ・来場者数 30名
- ・アーカイブ動画公開後、1月31日から31日までの視聴回数10回

参考)2月16日現在55回視聴+10回=65回視聴

講師	テーマ	所属・肩書
松本 真哉	「日常生活の見えない環境負荷を考えよう」	横浜市地球温暖化対策推進協議会 会長(横浜国立大学 教授)
高嶋 威夫	「子供と一緒に巻き込む家庭の温暖化防止対策」	とつかエココーディネーター協議会
日高 伸一		あきば幼保連携型認定こども園園長
廣木 亮哉	「グリーンカーテンの温熱緩和効果について」	東京都市大学環境学部4年RCE横浜若者連盟
阿部 綾乃	「若者や家庭が取り組める温暖化対策冊子づくりに取組んで」	フェリス女学院大学国際交流学部
櫻井 ひなよ		
高校生	「ソーラーパネルの設置を増やそう」	神奈川県立希望が丘高校
松本 真哉	司会	

3回のオンラインセミナーを通じて、延べ131名が視聴し、ライブ開催後も1月末までに動画の視聴回数が25回となり、市民への啓発という点で一定の成果があった。

協議会の特徴として、主に地域で実践している企業、団体、協議会と連携している大学・学生、高校・高校生と連携したセミナーとした。第3回目の省エネをテーマとしたセミナーは身近なテーマでもあり、アーカイブ動画公開後の視聴が大きく伸びた。

また今回のオンラインセミナーにおいては、司会や発表者を大学生、高校生が務め、来場者にも多数の学生が含まれるなど、若者への啓発の拡大という点で大きな効果があったといえる。

【写真】

第1回オンラインセミナーの様子



第2回オンラインセミナーの様子



第3回オンラインセミナーの様子



2) 風力発電とエネルギー関連施設等の見学会の開催

日時	場所	参加者 (人)	内容	横浜カーボン オフセット プロジェクト 回収枚数
令和2年 12月1日 (火)	ハマウイング、水素貯 蔵施設	16人	風力発電所「ハマウイング」と水素貯 蔵施設見学と省エネ・再エネ講座	14枚

風力発電と、二酸化炭素を出さない風力発電の電気で水を分解して水素を創る仕組みの施設は、令和2年1月に撤去工事に入るため、見学は今回で最後となる、新型コロナウイルスの状況のなかではあるが、環境創造局環境エネルギー課と綿密な相談をして人数も最小限で実施した。また、特に水素施設の室内での人数は、蜜を避けるために1回の人数を最小人数とした。初めての見学者が多く時間をオーバーする熱心な質問が出た。

募集方法は、協議会会員、FACE BOOK、等で実施した

また、往復のバスの中では、省エネ、再エネ講座を実施した。SDGsもからませた講座とした。



2. 削減実践部門

1) 太陽光発電の普及

(1) 事業期間

令和2年11月17日～令和3年1月31日

(2) 事業内容

- ①今年度から、プロジェクト制として運営する事になり、プロジェクト要綱を作成して、その要綱にのっとり活動を実施した。市内事業者5社、市外事業者3社の合計8社で構成し、市内、市外それぞれにプロジェクトリーダーを置き、月1度のプロジェクト会議を開催して運営を実施した。
- ②横浜発！太陽光発電普及キャンペーンチラシの作成 協定事業10000枚
 - ・企業・自治会館・大学・個人住宅の初期費用実質0円型、購入型等の事業内容、参加事業者一覧等掲載
 - ・事業者、横浜市、チラシ作成者、印刷事業者とのチラシの調整に多数の時間を要した。
 - ・各事業者へチラシ送付 各100部から500部
- ③問合せへの対応(過去のチラシを見ての問合せ) 4件
いずれも相手さまの名前、所在等の確認まではいかなかった。
- ④区役所と連携して、チラシの全戸回覧を1月に計画したが、新型コロナの影響で延期となった。
- ⑤市の取り組む太陽光発電の普及事業について、メール及び、プロジェクト会議内で情報の共有を実施した。
- ⑥設備の設置による二酸化炭素削減数値の把握は行えなかった。
- ⑦Facebook への掲載メッセージ、セミナー「再生可能エネルギー100%は可能か」に講師として参加して再生可能エネルギーの最近の動向、及びキャンペーン事業の具体的内容についてPRを実施した。(詳細は前述のとおり)
- ⑧設置場所に配布するシール、感謝状の作成は出来なかった
- ⑨名刺等に使えるロゴ作成については、見積もりを取ったが価格が高く、協議会参加の大学生に募集する事とした。

・参加事業者

株式会社横浜環境デザイン、株式会社太陽住建、日天株式会社、株式会社ロフトシステムズ、株式会社スカイテック、株式会社Looop、株式会社エクソル、NECキャピタルソリューション株式会社

・プロジェクト会議の開催

事前準備・当日運営・議事録作成・終了後の確認等を実施した。(詳細は別紙のとおり)

・設置件数

	事業者・自治会館・大学等			個人住宅		設置施設名
	設置・稼働		相談・調整	太陽光	蓄電池	
	初期投資ゼロ	その他				
平成 29 年度	0	2	—	26	—	
平成 30 年度	0	0	0	0	—	
令和元年度	1	3	32	30	—	・大川印刷株式会社 ・特別養護老人ホーム和みの里 ・横浜学園 ・社会福祉法人敬愛会
令和 2 年度	0	0	0	12	23	
計	1	5	32	68	23	

・2020年12月14日オンライン開催プロジェクト会議の様子



3. 環境学習・研修部門

1) 企業等×学生の環境課題解決マッチング会

(1) 事業期間

令和2年11月17日～令和3年1月31日

(2) 事業内容

①開催日時：令和2年12月12日（土）

②開催場所：フェリス学院大学をホスト校としてオンラインで開催

③開催内容：企業等の環境課題に学生が解決策を提案

- ・6つの企業等が抱える環境課題に、市内3大学から7の学生チームが解決策を提案した。
- ・希望が丘高校から3チーム16名が参加した。

・課題提案企業等

横浜参加企業等（五十音順）	提示した環境課題テーマ
イケア・ジャパン株式会社 IKEA 港北	より多くの方々に、サステナブルな生活により興味を持ち、実際の行動に移してもらうためには？
株式会社エクソル	太陽光発電設備を災害（停電）時でも役に立つ非常用電源として今よりもっと活用していくには、その地域においてどのような取り組みが必要か？
株式会社大川印刷	大川印刷として、『スコープ3』（その他の間接排出量ゼロ化）を実現するため、どのような活動をすれば再エネ電力の使用や CO2 の削減に取り組んでもらえるようになるか？
一般社団法人ツナグマム	「今」の選択の積み重ねが「未来」を作るということを、子育てスタート世代にポジティブにわかりやすく伝えるためのコミュニケーションのあり方とは？
株式会社ティービーエム	サーキュラーエコノミー&脱炭素を実現する TBM システムを横浜市に拡大展開していくために必要なことは？
株式会社 Looop	脱炭素経営の実現に向けた企業の再生可能エネルギー導入促進に必要なことは？

・大学生提案チーム

参加学生（大学7チーム、高校3チーム）	
東京都市大学 / 2チーム	フェリス学院大学 / 2チーム
横浜国立大学 / 3チーム	神奈川県立希望ヶ丘高校 / 3チーム

・審査について

別紙（発表時間、発表方法、審査基準）のとおり

・審査結果

表彰名	受賞校	発表タイトル	提案企業名
最優秀賞	フェリス女学院大学	サステナブル博士になろう！	イケア・ジャパン(株)・IKEA港北
優秀賞	東京都市大学	ともに歩むスコープ3	(株)大川印刷
奨励賞	横浜国立大学	IKEA X YOKOKOKU A Sustainable Everyday: Eco-friendly Furniture & more	イケア・ジャパン(株)・IKEA港北
奨励賞	横浜国立大学	PLAY Sustainability～もったいなIKEA～	イケア・ジャパン(株)・IKEA港北
奨励賞	横浜国立大学	横浜市企業マッチング会 XSOL× YNU横浜国立 大学	(株)エクソル
奨励賞	東京都市大学	地域の繋がりと環境	(一社)ツナグマム
奨励賞	フェリス女学院大学	君と油とゼロカーボンの夏 2021～feat. TBM～	(株)ディービーエム
参加賞	希望ヶ丘高校(1組7班)	交通革命を起こす	
参加賞	希望ヶ丘高校(2組2班)	希望ヶ丘高校を再エネ100にする	
参加賞	希望ヶ丘高校(4組3班)	学校や家庭での廃食油の回収	

・成果

参加は、3大学7チーム、企業等6であった。更に希望が高校3チームの参加があり、それぞれ素晴らしい提案が出された。神奈川新聞には、当日の様子と、これまでの実現にむけた取組が掲載された。

初めてのオンライン開催ではあったが、ホスト校、参加大学のチーム、及び参加企業の皆様、横浜市の協力もあり、途中混乱する事も無くスムーズに運営され、審査の結果、上記2チームが最優秀賞、優秀賞に選考された。

希望が丘高校は、選考はせずに参加賞とした。

学生たちは、課題への解決策提案に向けて、自分たちの選んだ企業等とオンラインでやり取りを実施して、提案を作り上げた。中には複数回のやり取りをするチームも有った。

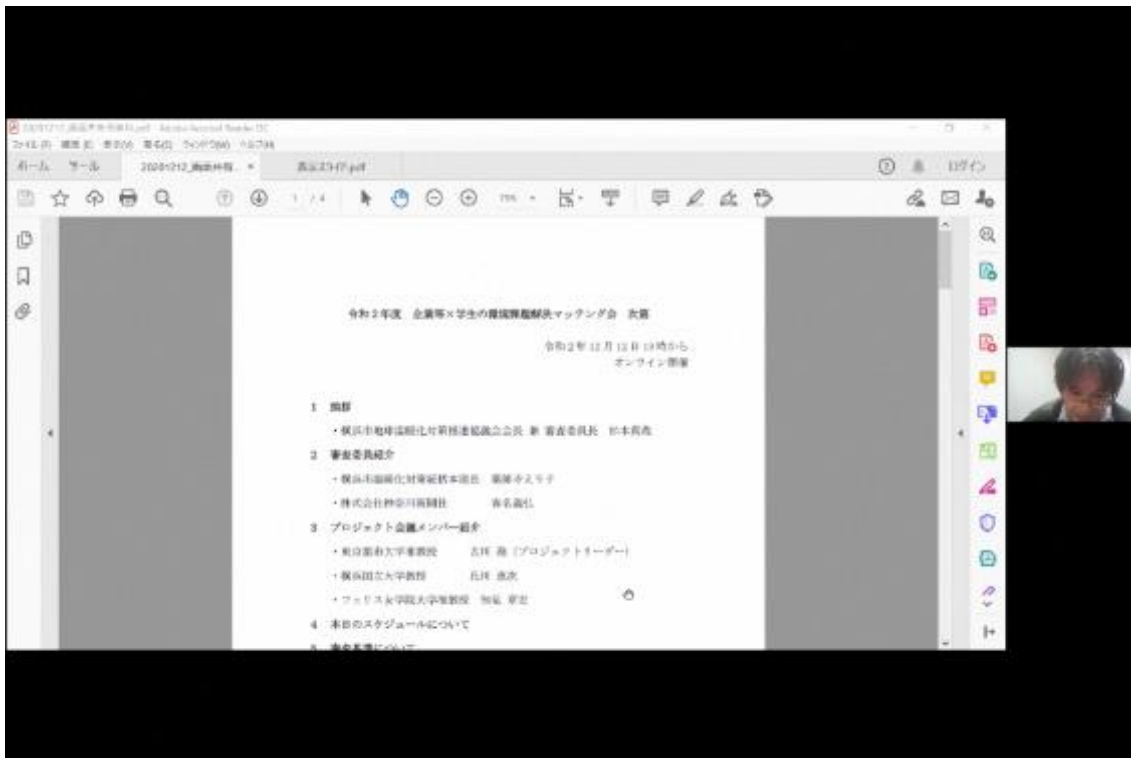
また、今回はオンライン開催ではあったが、一般参加者の募集も実施し、協議会会員への呼びかけ、face book「zero carbon 横浜チームゼロ」、協議会HP等への掲載で参加を呼び掛けた。最初は応募がなかったが、前日・及び当日開始時間寸前まで応募があった。結果、当日参加者は関係者も含めて67人であった。

終了後、参加の企業等に、今後実現に向けて対応可能かのアンケートを実施した結果、ほとんどの企業等がなんらかで連携したいとの回答が寄せられた。学生チームの希望も聞き、今後に向けたマッチングの場を設ける予定である。

- ・プロジェクト会議の開催

事前準備・当日運営・議事録作成・終了後の確認等を実施した。（詳細は別紙のとおり）

- ・写真



II 自主事業

4. 区民まつり等イベントでの令和2年度重点テーマの普及

1) アースアワーへの参加

「大学生・高校生・小学生が進める「温暖化対策の取り組み提案」

主旨

横浜市内の小学校・高校、大学で授業やゼミの中で、様々な形で生徒・学生たちが地球温暖化対策、ZERO CARBON に取り組んでいる。しかし、その取り組みはなかなかひろく知らせる事が出来ないのが現状である。そこで、アースアワーの当日企画の中で発表する事により、まだ取り組んでいない学校や学生たちにその取り組みを広げる事をめざした。また、当協議会が2018年度から取り組む「企業等×学生の環境課題解決マッチング会」の実現可能性にむけた意見交換等の状況を伝え、アースアワー参加の学生や企業に関心をもっていただき、次年度への参加を促す事をめざした。

開催場所・日時

横浜新市庁舎アトリウム3月27日（土）11：00から消灯開始をはさんで20：40まで

出演者

- ① 佐藤一子 地球温暖化の現状と協議会の取組 10分
NP0 法人ソフトエネルギープロジェクト理事長、横浜市地球温暖化対策推進協議会事務局長
- ② フェリス女学院大学 オンライン出演 15分
「学生・若者が日常から取り組めるゼロ・カーボン冊子作り」
- ③ 横浜国大と IKEA ジャパン港北ストア
- ④ 京都市大学と大川印刷(株)
- ⑤ 希望が丘高校生 3 チーム
- ⑥ 横浜国立大学立羽沢小学校

5. 環境施設等親子見学会

新型コロナの影響で実施不可能となった。

6. 排水油脂、廃食油フードグリーン発電普及プロジェクト

今年度からプロジェクトとして活動を実施した。

事業名；障がい者等と連携した新しい生活様式に沿った廃食油回収スキーム作り

①台所油田プロジェクト 回収実績 報告書

家庭・スーパー等で廃棄される廃食油の回収、及び、飲食店、フードコート等で廃棄される排水油脂を回収し、エネルギーとして有効活用を図り、二酸化炭素排出削減を实践する事による zero carbon yokohama の取組をめざして、取組者の拡大を図った。

- 1) 今年度は、排水油脂に関しては、ケンタッキーフライドチキン東京店・埼玉店において回収の取組を進め、再生可能エネルギーとしての活用をめざし、2021年度からは横浜店においても取組を開始する事を模索している。
- 2) 廃食油に関しては、栄区、港南区等において、区民まつり等で多数の廃食油が回収されて来たが、新型コロナウイルスの影響によりほとんどの区で区民祭りが開催できなくなり、回収も実施できなかった。
- 3) 鶴見区も同区の団体が区役所にて定期的な回収を実施してきたが、やはり新型コロナウイルスの影響で、回収が中断している。
- 4) 港南区においては、区役所の協力により、区民祭りの代わりに回収を実施する事が出来た。また、港南区は自治会・町内会が拠点回収を進めてくれていて、2020年度は15ヶ所2500リッターの回収が出来た。
- 5) 保土ヶ谷区でも、自治会での回収と月1度実施している野菜市でも回収を開始した。
- 6) 他にも栄区、旭区、戸塚区でも拠点回収が実施出来ている。
- 7) 2020年度は、信愛エナジー合同会社から、SDGs biz 補助金を活用した調査依頼があり実施。

	回収拠点	回収回数	
イベントにて回収			
	【区民祭り】 1・こうなん子どもゆめワールド 2・栄区区民まつり 3. 湘南桂台どんと焼き 4. ダイエー前 5. 鶴見三ツ池公園フェス	新型コロナで中止となった	
自治会・町内会での回収			
1	港南区	18 か所	
2	栄区(協力:自然エネルギーを活用する会)	8 か所	
3	旭区(協力:旭エコオイルの会)	21 か所	
4	保土ヶ谷区	1 か所	
5	戸塚区(	2 か所	
6	瀬谷区	1 か所	
7	泉区	1 か所	
8	金沢区	1 か所	
9	鶴見区(協力:アース green つるみ	3 か所	
②回収協力自治会・団体等 協力自治会:港南区			

芹が谷連合自治会(6 か所)、野庭住宅連合自治会(4 か所)、丸山台連合自治会(4 か所)、日限山自治会、
さつき台自治会(2 か所)、下永谷西港南台自治会、南さくら町内会、東松山町内会

協力自治会:戸塚区

前田町内会(2 か所)

協力自治会:金沢区

六浦東自治会

協力自治会:瀬谷区

阿久和住宅自治会

協力自治会:泉区

G ハイム B 自治会

協力団体:旭エコオイルの会、

アース green つるみ

栄自然エネルギーを活用する会

③二酸化炭素削減量等

自治会町内会合計【2903.5L】 $2903.5\text{L} \times 2.7\text{kg-CO}_2/\text{L}$ (重油排出係数・重油の代替え燃料に利用) = 7839.45kg-CO₂

削減総合計【4033L】 $4033\text{L} \times 2.7\text{kg-CO}_2/\text{L}$ (重油排出係数・重油の代替え燃料に利用) = 10889.1 kg-CO₂ 削減

植林換算 777 本 太陽光発電換算 1 リットルの廃食油で 1 か月 7000 円程度の電気代の家庭の 1 日分の電気を発電
するので、エネルギー自給率わずか 5%であることを考えると捨てるのはとてももったいないと思われる。

「障がい者等と連携した新しい生活様式に沿った廃食油回収スキーム作り」 報告書

I・オンライン映像 別紙

動画URLは以下となります。

<https://youtu.be/5H0pgn6bPoY>

II・学習会、説明会開催 5ヶ所

1・新しい回収方法の説明とモデル取組の依頼

2・内容

SDGs biz サポート補助金を活用して、ペットボトル以外の回収方法について計5回、意見交換・学習会を開催し、モデル取組への協力依頼を実施。

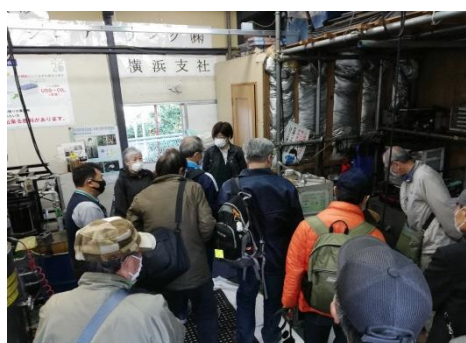
3・開催日時

1)第一回

- ① 開催日時 令和2年11月11日
- ② 開催場所 信愛エナジー合同会社
- ③ 参加者 保土ヶ谷区区民会議環境分科会

④ 内 容

廃食油回収事業者による、回収後の廃食油のエネルギー活用の説明会を実施。



2) 第二回

① 開催日時 令和 2 年 11 月 26 日

② 開催場所 港南区役所会議室

③ 参加者 芹が谷連合自治会

保土ヶ谷区法泉堺木自治会

信愛エナジー合同会社

丸紅(株)

横浜市地球温暖化対策推進協議会

会長 藤田誠治氏

会長 佐久間

会長 朝比奈巖

大坪愛

事務局長 佐藤一子

④ 内 容

これまでのペットボトルに入れて出してもらう廃食油回収を実施してきたが、製造・廃棄に二酸化炭素が排出され、さらに、川や海でマイクロプラスチックとなり生態系への環境汚染にもつながるペットボトルでの回収を、ペットボトル以外での回収方法について意見交換を実施した。さらに障がい者の方と連携した回収方法についても意見交換を実施した。

<https://youtu.be/Qo1RWICwtyo>

3)第三回

① 開催日時 令和 3 年 1 月 19 日

- ① 開催場所 羽沢小学校
- ② 参加者 4年生 40名
- ③ 内 容

家庭用廃食油の90%以上が廃棄されていて、廃棄する事によりごみが増える、更に川や海の環境汚染にも繋がる事を説明。さらに、回収する事により、インクの原料、クリーニング店、及び冬場の苺やトマト等の温室栽培で使う重油代替エネルギーとして使う事が出来る事、および廃食油1リッターで、二酸化炭素を出さない再生可能エネルギーとして、一般家庭の1日分の電気を発電する事が出来る事をパワーポイントにて説明を実施した。

生徒は隣の組にも呼びかけて、家庭から廃食油を回収して、①石鹸づくり②キャンドルづくりを実施した。また、あわせてペットボトルの環境汚染のお話を実施し、現在のペットボトルを使った廃食油回収方法の見直しが必要であることも説明した。

なお、学校での、継続した廃食油回収を呼び掛けたが恒常的な回収にはつながらない予定である。



4)第四回(3自治会合同)

- ① 開催日時 令和3年2月23日
- ② 開催場所 港南区芹が谷連合自治会 ふれあい会館
- ③ 参加者
- ④ 内 容

本来であれば、各単位自治会毎に説明会、報告会を開催すべきで有るが、なかなか人が集まる事の困難な時期でもあり、3自治会から会長・副会長に参加いただきこの間の新しい回収方法のモデル取組についての成果と今後に向けての報告をお聞きした。3人共に実際に自分もこのタンブラーを使って出しているので、ペットボトルからタンブラーに変えたことと、今後の改善点についてお話をお聞きした。

⑤効果・改善点

・ペットボトルを使わないことで、二酸化炭素の削減につながり、川や海の環境汚染を妨げる事に繋がるのは良いことである

- ・小さいので持ちやすい
- ・口がついているので、持ち帰り易い
- ・しかし、廃食油の多い家庭ではすぐ一杯になってしまう
- ・もう少し下の方が広く安定した容器の方が望ましい
- ・容量ももう少し多く入るような容器が望ましい
- ・今のペットボトルも使用する人がいた場合、その場で回収ボックスに空けてもらい、

空け終わった容器をどうするか考える事も必要

- ・回収容器と併せて、他市で使っている回収容器の検討も今後必要

⑤ 今後に向けて

緊急事態宣言が明けたら、動画等もみせて3自治会の役員の方たちに意見を聞いてみる。

その後、新しい回収方法への協力を呼びかけるチラシの回覧等を検討したい。



第五回

- ① 開催日時 令和3年2月24日
- ② 開催場所 保土ヶ谷区役所1回
- ③ 参加者 保土ヶ谷区法泉塚木自治会長
保土ヶ谷区区民会議環境分科会
信愛エナジー合同会社 社員 戸川氏
- ④ 内 容

緊急事態宣言が解除されたら環境分科会の皆様に集まって頂き、新しいタンブラーでの回収の取組について、ペットボトル回収による環境汚染等についての説明、及び今回のタンブラー活用の効果について説明の予定でしたが、解除されず代表に集まって頂き、新しいタンブラー活用の効果をお聞きした。

専用の容器が出来たことは、1回使用して廃棄する気にはならず、再度使用する効果は有った。あまりたまらない家はこの大きさが良いが、何度かためておくためには、せめて1リッター程度入る、もう少し底の安定した容器の方が良いのではとの意見が出された。

今月から毎月1回野菜市が開催されるので、野菜市のチラシに廃食油の回収実施も掲載してもらい回収を実施する。その中でも徐々に呼びかけをしていく予定である。



Ⅲ チラシ

廃食油を資源として活用しましょう！

捨てているてんぷら油(廃食油)を活用して地球の未来を子どもたちにバトンタッチ！

家庭から出る廃食油等の90%以上が廃棄
事業系でも20%は廃棄されている

<現在の回収方法>



私たちはペットボトルを使わない回収方法実験中

このボトルは未来のエネルギーへの
バトンです。新しい時代への「芽」がス
クスクと成長していくイメージをデザ
インしました。

ごみを出さないよう、未来のエネル
ギーだけが集まるように繰り返し廃
食油の回収運搬に利用してください。
注意:油をよく冷まして、できるだけカ
スを取り除いてから入れてください。
「小さいキャップを開き、回収BOXの
中の缶に注いでください」



<容器を回収せず廃食油のみの回収>

—他市ではそんな回収も実施されてます—

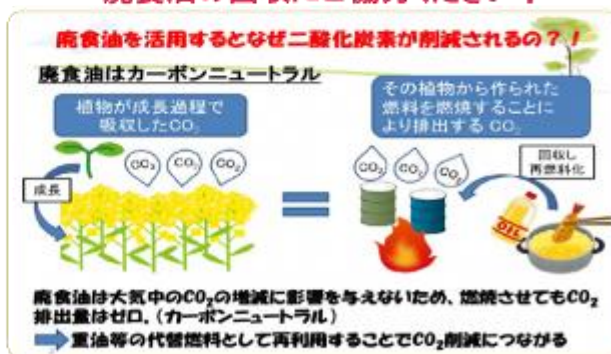
私たちも目指したい！

・ペットボトルを使わない回収方法

台所は都市の油田！

- ◆都市にも資源はある！
- ◆捨てているモノを有効活用！
- ◆もったいない！

廃食油の回収にご協力ください！



問い合わせ先 *電話番号入っているところは直接も可

■横浜市地球温暖化対策推進協議会
事務局 長 携帯 090-1206-6370 (土曜・日曜・祭日も可)
事務所 中区真砂町4-43 木下商事ビル4階

■信愛エナジー合同会社 *協議会会員プロジェクトリーダー
〒245-0018 神奈川県横浜市泉区上飯田町3609-1
TEL 045-459-5741 FAX 045-459-5742

QRコードから横浜市内
の回収拠点が見れます！



IV 廃食油回収地点マップ

別途マップ作成 URL 下記参照

https://www.google.com/maps/d/edit?mid=17XCRL_2mCNWlsdI7ya7RYZt1qyEqI46P&usp=sharing

V 回収マップ QR コード、Facebook:掲載(協議会 HP にも掲載)



7. 関内地域におけるエコタウン化の推進

(大学・企業課題解決マッチング会実現化事業の実現)

関内まちづくり振興会のビジョンに位置づけられた「関内エリアのエコタウン化」と平成元年協議会開催の「大学・企業課題解決マッチング会」における関内まちづくり振興会の課題への横浜国立大学学生の提案を基に、その実現化をめざした。

1) 取組テーマ

取組テーマとしては、ビル等の省エネ効果測定、再生可能エネルギー化、緑化、排水油脂・廃食油の回収、エコカーとし、推進体制をつくり、モデル取組を行った。

2) 推進体制メンバー

- ① 関内まちづくり振興会メンバー
- ② 横浜国立大学地域連携センター
- ③ 国立産業総合研究所上級研究員
- ④ パタゴニア

3) 実施内容

- 1) 省エネ診断の実施を呼びかけに 7 ビルが応募、国立産業総合研究所上級研究員が現地調査等を実施して、関内まちづくり振興会のまちづくり部会で報告を実施した。
- 2) その後、国の事業委託を受けた団体の省エネ診断を 3 ビルが実施した。

3) 実施内容

① ビルのエネルギー効率化の調査

- ・ 調査実施者 歌川学氏 国立産業総合研究所
 氏川恵次 横浜国立大学

・ 調査希望者

秋山会長ビル、中谷副会長ビル他合計 7 ビル

② エコタウン化による行動結果の二酸化炭素の削減量測定

- ・ 調査実施者 歌川学氏 国立産業総合研究所
 氏川恵次 横浜国立大学

下川都志子 silva まずは屋上緑化のビルの測定

・ 廃食油。排水油脂回収と発電

協議会会員企業との連携

8. 大学・企業課題解決マッチング会実現可能性事業

令和元年大学・企業課題解決マッチング会実現可能性を検討する

- 1) イケア港北店と東京都市大学・神奈川大学・東洋英和大学
- 2) 横浜市とフェリス女学院大学
- 3) 日産自動車と横浜国大、フェリス女学院大学
- 4) ★関内まちづくり振興会への国大提案は自主事業へ
- 5) ★一戸町への国大の提案は一戸町との自主事業へ

企業等×学生の環境課題解決マッチング会実現可能性事業に関する報告
—2020 年度継続している事業のみの纏め。

2021 年 2 月 15 日

開催年	提案企業等	提案課題	提案大学	具体的取組
2018 12 月	日産自動車 (株)	超小型モビリティ「チョイモビヨコハマ」を活用した、若年層(16～25 才)に向けたクルマ魅力伝達・購買訴求に関する具体策の提案	横浜国立大学	提案の学生、日産自動車、氏川教授、国大内の交通研究チーム、佐藤で打ち合わせを実施。 ② 横浜国大での教職員・学生向け試乗開始 10 月～11 月、横浜駅ベイクォーター～横浜国大(常盤台)間でのカーシェアリングモデル取組実施。 ③ ステーションの拡充(和田町、羽沢横浜国大駅)・相鉄本社との連携による羽沢横浜国大駅の開業に合わせたイベント・広報 羽沢及び常盤台地区にて通勤通学利用・業務利用の可能性について、学生や関係個所と連携して実装の展開を検討した
			フェリス女学院大学	① フェリス女学院大学からチョイモビを活用した婚活イベントの実施が提案される。 他の大学にも呼びかけて実行委員会を形成。 大学生なので婚活は難しいとの提案があり、チョイモビを活用した大学間連携事業とした。 ② 何度も実行委員会を開催、日産本社、横浜国大で試乗体験。会場は、各大学を視察したがカーシェアリングを実施している横浜国大となった。 ③ 当日の役割分担も決まり当日を迎えるばかりの準備が整ったが、台風の接近で中止となる。何とも残念な結果となった。 ★実行委員会運営は大学生たちが役割分担して担い先生、協議会がアドバイスを実施

	ケンタッキー フライドチキン	フードロス低減への 具体策の提案	東洋英和 女学院大 学	フードバンク等への提供に繋がる 何度か意見交換をケンタッキーに働きかけ たが了解は難しかったが、翌年の実現可能性 では報告をしていただいた。
2019 12 月	関内まちづ くり振興会	セントラル関内のまち づくりを考える際の 「エコタウン化」のアイ デアや視点の提案— (ビジョンづくりへの若 者の提案)	横浜国立 大学	① 横浜国大生が関内街づくり振興会にて「まち づくり部会」で解決策を提案(早かったので、振 興会において学生から提案が出来た)。 まちづくり振興会のビジョン「セントラル関内エコ タウン化」で取組む事となる ② 協議会の 2020 年度自主事業として事業化
2019 12 月	一戸町	再生可能エネルギー 社会の維持における 森林保全についての 提案(税制を除いて)	横浜国立 大学	① 事務局から一戸町へ電話にて実現可能性 について相談。 氏川先生からも機会があれば一戸町に学生が 伺う等検討したいとコメントを頂いたが、その後 新型コロナの影響で学生が一戸町に行く事が 難しくなる。 2020 年度事業として、一戸町から総務省「関係 人口創出・拡大事業」モデル事業の実施につい て依頼あり。協議会の 2020 年自主事業として 事業化、国大からの提案でもあり、 氏川教授がアドバイザーとなる
2019 12 月	イケア・ジャ パン 港北店	より多くの方々に、 日々の暮らし、そして 人生の中で、より持 続可能な、人にも地 球にもポジティブな選 択肢を選んでいただく ための提案	東京都市 大学 東洋英和 女学院大 学 ・フェリ ス女学院 大学	① それぞれの学校がイケア港北店と意見交 換会を実施。 来店者を巻き込んだワークショップを提案した が、その後新型コロナが発生し人が集まる事が 難しくなり中断。 ② 事務局が関わり、それぞれの学生チーム に、ワークショップ以外の提案の可能性がある か、担当の先生を通して打診。 ③ 結果、フェリス女学院大学のみが参加希望 調整中

2019 12 月	横浜市温暖化対策統括本部	「Zero Carbon Yokohama に向けた、ムーブメント作り」	フェリス女学院大学	① 提案事項について横浜市温暖化対策統括本部とフェリス女学院大学にて実現可能性についてオンライン意見交換実施 ② その後、手作りの省エネ冊子を作製した ③ 2021 年度、どの様に連携するか検討中
--------------	--------------	--------------------------------------	-----------	--

9. 太陽光発電の普及

「横浜発！太陽光発電キャンペーン 2020」の実施に当たり、参加事業者と連携して、太陽光発電を設置した。家庭等（自治会館、企業等）に 10kW 前後設置 1 件につき「エコポイント」8000 円を差し上げキャンペーンの促進を図った。

加えて、チラシ印刷の実施、会員への配布、イベント、会議での配布を実施した。

また、FACE BOOK ゼロカーボン横浜チームゼロにおいて何度も PR を実施し、HP にも掲載し、PR を実施した。

10. 関東地域温暖化対策地域協議会交流会

新型コロナの影響で、活動の報告を事務局が纏めるにとどまった。

11. 岩手県一戸町との連携事業

別紙報告書のとおり

12. ウェブサイトでの告知・PR および Facebook の運用

1) 事業期間

令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日

2) ウェブサイトでの発信

①更新回数

17 回

②発信内容

「一戸&横浜 花の交流・オンラインイベント」告知・募集、報告

「風力発電見学会&「水素発電施設」最後の見学会」告知・募集、報告

「大学・企業等課題解決マッチング会」告知・募集、報告

「連続講座 2050 年 温室効果ガス実質ゼロを目指して 第 1 回～第 3 回」告知・募集、報告

YouTube チャンネル開設告知

「一戸&横浜 オンライン勉強会～一戸町を知る三日間～」告知・募集、報告

太陽光発電普及啓発キャンペーン告知

新たな廃食油回収方法に関する動画告知

横浜市の取組

③その他

「横浜発！ 太陽光発電普及キャンペーン 2020」のページを更新

3) Facebook の運用

①運用変更の経緯

昨年度、既に取組を進めている横浜市、企業、団体間、大学・自治会等の情報を見える化し、横のつながりを強化するプラットフォームを立ち上げることを目的として、Facebook「チーム・ゼロ」を開設した。その際、Facebookの「ページ」機能を利用することとした。この「ページ」とは、Facebookアカウントを持っていない人であっても閲覧することができるホームページのような利用形態を提供するFacebookのサービスである。

しかし、「チーム・ゼロ」を運用して間もなく、この「ページ」機能には、以下のような問題点があることが判明した。

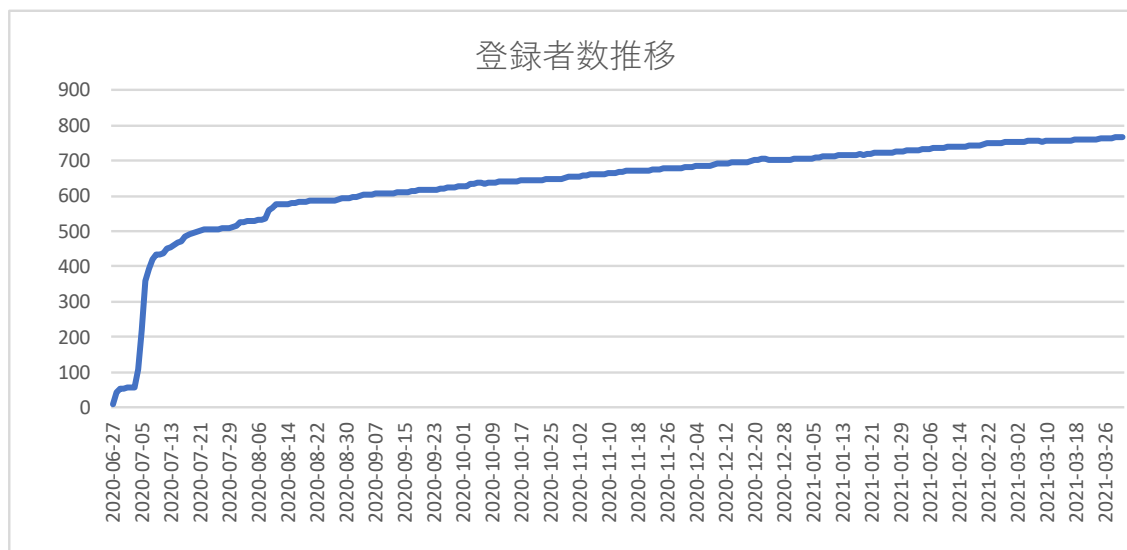
- ・Facebookの仕様により、「ページ」に管理者として登録されたユーザーが投稿すると、全て「ゼロカーボン横浜チームゼロ」として管理者名が表示されてしまう。
- ・投稿名だけでなく、投稿に対するコメントや「いいね」も「ゼロカーボン横浜チームゼロ」というページ管理者名として表示される。
- ・その結果、はたから見ると、「ゼロカーボン横浜チームゼロ」名の投稿に対して、「ゼロカーボン横浜チームゼロ」名のコメントや「いいね」が返ってくるという、自作自演かのような印象を抱かせかねない事態を招いてしまっている。

上記の課題を解消すべく、横浜市および協議会関係者で協議した結果、Facebookの「グループ」という機能を活用して「チーム・ゼロ」の運用を変更することとした。この「グループ」とは、本来は、共通の趣味・関心について交流できるコミュニティーの場としてFacebookが提供するサービスである。「グループ」への移行によって、誰が投稿したか、投稿者名が表示されるようになり、自作自演かのような印象を回避するという課題は解消した。

その一方で、Facebookの仕様により、登録者数が250名未満の「グループ」はFacebookアカウントを持っていない人は閲覧できない、という別の課題があることが判明した。これに対しては、なるべく早く登録者数が250を超えるよう努力するという方針で対応することとなり、2020年6月27日より「ページ」から「グループ」へ運用が変更された。

②登録者数の推移

幸いなことに、横浜市および当協議会幹事の多大なる助力、協議会事務局の勧誘努力により、約1週間強で目標の登録者数250を超えることができた。その後もイベント毎に地道に「ゼロカーボン横浜チームゼロ」の告知を続けることにより、登録者数は増え続け、2021年3月31日現在、登録者数は768名を数えるまでになった。(以下グラフ参照)



③成果と今後の課題

「グループ」への移行以来、2021年3月末までの投稿数の平均は、3回/日、リアクション数（「いいね」「コメント」「シェア」）の平均は約50個/日となっている。投稿毎の閲覧数は多いときで、1000ビューを超えることもあり、既に「ゼロカーボン」へ向けての取組を進めている諸団体の情報が見える化し、横のつながりを強化するプラットフォームとしての役割について、順調に果たしつつあるといえる。

その反面、Facebookには若者の登録者が少なく、また、実名登録に忌避感を抱くユーザー層も一定程度存在することから、いかにこうした層をとりこむか、TwitterやYouTube等、他のSNSの活用していくことが今後の課題である。

現在の Facebook「ゼロカーボン横浜チームゼロ」グループのカバー写真



<https://www.facebook.com/groups/yokohama.team.zero/>